

太政類典

從明治十一年第三編

第九拾壹卷

第六類

治罪

行刑 三

十二年二月十二日

石川縣士族富田信貫國事犯罪ニヨリ除族ノ上禁獄ニ處ス

司法省伺

石川縣士族富田信貫憂分方ノ儀ニ付別紙ノ通律案
ヲ附シ玉乃判事ヨリ伺出候間右伺ノ通御裁可相成
度此段及上申候也十二年一月廿九日
伺ノ通十二年二月十二日

大審院上申司法省宛

石川縣士族富田信貫儀國事犯一件ニ付審問ヲ遂ケ

候蒙信貫儀軍曹在職中逃亡ノ犯罪ハ軍律ヲ以テ處
分スヘキ植内ノ事柄ニ付國事犯ニ係ル口供及ヒ擬
律按ヲ添本省ヘ伺濟ノ上明治十一年九月廿八日陸
軍省ヘ引渡シ候蒙令般別紙ノ通御達シニ依リ明治
十二年一月廿三日陸軍省ヨリ信貫ヲ受取リ候ニ付
テ別紙擬律ノ如ク處分致シ可然裁猶又口供及ヒ擬
律按並ニ御達書寫共相添此段上申候也十二年一月廿七日

擬律按

陸軍々曹在役中明治七年八月兵營ヲ脱シ姓名ヲ變更
シ石川縣ニ潛匿中明治十年七八月頃島田一良カ重臣ヲ
殺害セントスルノ企ニ同意シタルモ後ニ悔悟心ヲ生セシ旨
申立ルト雖モ明治十一年三月一良カ大久保參議ヲ殺害ノ
為ノ上京ノ時ニ至リ一良ノ委托ヲ受ケ旅費ノ金策ニ

奔走シ池田嘉世外數名ヲシテ出金セシメ之ヲ一良ニ附
與シ且又同人登途ノ内水島驛マテ見送リヲナシ加之一良カ
上京出立ノ後モ尚ホ一良カ為メニ旅費金ヲ立替置キシ者
ニ對シ補償セシ一ニ周旋シタルニヨリ一良カ重臣ヲ殺害ス
ルノ企ニ同意セシモ後ニ悔悟セシトノ申立ハ相立ストス
除族ノ上禁獄十年

口供

富田信貫

石川縣第十大區小六區加賀國石川郡金
澤中主馬町四番邸士族與田靜治方同居
石川縣士族

富田信貫

明治十一年八月
二十七年

一自分儀近衛歩兵第一聯隊第一大隊第一中隊附陸

軍々曹在後中明治七年八月二十九日カ三十日カ
 二宮ノ脱出シ東京又ハ横濱ニ暫ク潜伏シ夫ヨリ
 東海道路通リ大坂ニ至リ居ルト幾許ナラスシテ復
 タ東京ニ帰リ明治八年一月カ二月ノ頃加賀國全
 澤ナル奥田静治静治ハ自分妻ノ弟ニテ自分妻ト
 澤ナル奥田静治女子ト曾テ此ノ家ニ同居ス
 宅ニ帰着セリ石脱宮以降所々ノ旅店ニ投宿スル
 毎ニ宿帳ニ多クハ偽名ヲ稱シタリ尤モ何ニト詐
 稱シタリレカ今之ヲ記憶セサルナリ却説自分静
 治宅ニ潜伏中明治八年四五月以來自分奥田静治
 水野生清等水野生清等ヲ奥野清吾ト指名セシ由ナレトモ
 自カラ清吾ト稱セシト及ヒ他ヨリモ清吾ト稱呼
 寛ナレシト詐稱シテ明治十一年マテ引續キ米商
 賣ヲ為シ居タリ
 一自分カ亡父ト島田一良カ亡父トハ旧藩ノ時共ニ

卒ニテ同役ナリシ故自分幼年ノ頃ヨリ一良ト別
 懇ニ交リ居リシカ明治十年七八月頃ト覺ヘ一良
 ヨリ自分ニ向ヒ當今ノ政体甚タ宜シカラス就テ
 ハ要路ノ大臣参議両三名ヲ殺害セハ此政体必ス
 一変スハキニ付同意致スヘシト屢申勸メタルニ
 依リ自分ニ於テモ一良カ論説ヲ尤ト存シ一良カ
 企ニ同意セリ然ルニ其後自分ハ悔悟心ヲ生セシ
 ニヨリ一良ニモ大臣参議殺害ノ下ハ絶念スハシ
 ト忠告シタレ凡一良ハ決心シテ動カサル景況ニ
 付自分モ敢テ之レニ抗論モヤサリシカ一良ハ是
 非大臣参議ヲ殺害スル下ニ決心セシ趣ニテ頻リ
 ニ旅費ノ金策ヲ自分等ニ依頼スルニ付明治十一
 年三月十二三日頃ト覺ヘ自分官崎延義ト共ニ越

中國高岡ニ到リ同所警察署詰警部池田嘉世巡查
成田安次郎官村憲政柏葉臣信ニ面會シ此度島田
一良カ上京スルニ村親友間ノ好ミヲ以テ旅費ノ
出金アラレトテ終セシ処右ノ四名ヨリ金拾圓ヲ
扶助セリ即チ之ヲ受取り延義ヨリ其金ヲ一良ニ
付與シタリ

一明治十一年三月廿五日島田一良出京奈是ノ時見
送リトシテ伊藤了父子島田次郎一良弟 宮川貞英官
崎延義雪野銳次郎自公共ニ一良カ伴モ乳母ニ懐
カレ同行シタリ而シテ餘人ハ皆野町ノ町外レニ
テ別テ告ケテ立歸リタレト了延義貞英銳次郎自
公共ニ五名ハ水島駅マテ参リ同駅ニ於テ一良ト
俱ニ一泊シ翌朝楢ア生川ア寺前マテ見送り此所

ニテ自分等五名共ニ一良ト別レタリ

一島田一良ヲ見送り水島駅ニ泊リシ夜ハ酒有テ置
キ或ハ碁ヲ圍シ或ハ雑話ヲ為シ酒ノ肴ニハ延義
等カ鷗ヲ手カラ料理シタル由ナレト自公ハ碁ヲ
打ラ居リシ故其事ニハ關ラサリモ翌朝ア生川マ
テ公杖ノ際一良カ茶句ヲ咏セシ由ナレト自公ハ
曾テ之レヲ知ラサルナリ

一島田一良カ金澤ヲ出立セシ後郵便ニテ水野生清
ノ手ヲ経テ自公ニ受取りシ書翰ニ通テ内道中ヨ
リノ一通ニハ專ラ一良カ家事ヲ依頼スルノ文ナ
リ東京ヨリノ一通ニハ生清及ヒ入江鎌次郎自分
ニ早々出京スハシトアリ然ルニ自公ハ既ニ悔悟
心ヲ生セシ折柄故生清ニ其旨趣ヲ以テ断リタリ

就テハ鎌次郎ハノ傳言ハ如何スヘキヤト生清ニ
計リシ處生清云折角一良カ頼ミ越シタルトナレ
ハ免ニ角通知スル方然ルヘシト依テ自分熊々鎌
次郎カ商業先長町ノ檢査社ニ到リ一良カ書翰ノ
旨ヲ傳ヘ而シテ自分云一良カ企謀スル所ハ甚々
宜シカラサルトト拙者ハ既ニ悔悟心ヲ生レ断念
セシニ付足下モ出京ノトハ思ヒ止マルヘシト意
見ヲ加ヘタリ

右ノ通相違不申上候也

明治十一年八月廿八日 富田 信 貫 押印

口供

石川縣士族

富田 信 貫

一明治十年十二月十三日島田勇カ囚人護送トレテ
縣廳へ出頭セシ時自分宅ニ立寄りタリ其節勇云
先日島田一良ヨリ至急面會致度ニヨリ来リ呉レ
ヨト申越タルニ付是ヨリ一良ヲ訪フ積リナルカ
一良カ右様申越タルハ如何ナル用事ナラント自
分云一良ハ大久保参議ヲ暗殺スルトテ企テ拙者
ニモ其事ヲ勸メタルニヨリ一旦ハ同意シタレド
其後甚々宜シカラサルトト悔悟マリ多分一良ハ
右暗殺ノトヲ足下ニ勸ムル積リナルヘキニヨリ
足下一良ヲ訪フトハ宜シカラスト

一明治十年十二月十九日島田勇ヨリ久保嘉吉郎ニ
與ヘタル書翰ニ右人。一件ニ付金額三圓御送
致相成正ニ握掌云々野生當月十三日囚人護送ト

シテ出願ニ付幸ナルカナ奥野君ニ面會仕候處右
 〇〇人ニ付色々御話御坐候へ共今度ノ愚書ニハ
 畧ス就テハ先生金三圓後ヲ野生金壹圓都金四圓
 奥野君ニ慥ニ相渡申候ト記載アル金圓ノ下ニ付
 御尋ノ趣拜承セリ右金ハ十年十二月十三日自分
 勇ニ面會セシ時受取タルニハ非ス其以前勇ヨリ
 朝日屋ト申者ニ託シテ自分方ニ差越シタリ勇ノ
 書翰ニ金四圓慥ニ相渡ストアルハ朝日屋ニ託シ
 テ自分ニ渡シタル下ヲ申シタルナリ自分カ右金
 ヲ受取リタル試ハ明治十年ニ三月コロ小野某カ
 金澤ニ来リシ時當時小野ハ越中
 福野ニ居住セリ自分ニ向テ云島
 田一良迄来大ニ困窮シタルニ付拙者扶助金ヲ立
 替へ一良ニ渡シ置ケリ尤共事ハ一良カ親友一同

へ相談セリ就テハ久保嘉吉郎島田勇ノ出金ハ足
 下ニ渡ス様談シ置キタルニ付足下之レヲ受取リ
 拙者方ニ差越シ呉レヨト依頼アリシユヘナリ其
 後官崎延義カ越中ニ赴ク時右金ヲ官崎ニ託シテ
 小野ニ送りタリ尤モ小野カ一良ニ扶助金ヲ渡マ
 レハ明治九年十二月カ十年一月カノ下ニテ一良
 カ工京ノ旅費金トハ事柄全ク相違マルナリ又扶
 助金ヲ渡スヨリ以前小野ヨリ一良カ親友一同へ
 相談セシヤ否ヤハ自分之レヲ確知セサレハ一良
 カ親友一同ニ相談セリト小野ヨリ自分ニ語リシ
 ヲ見レハ扶助金ヲ渡ス以前既ニ其相談ハ調ヒシ
 下ト自分ハ推察シタルナリ

一其方ハ一旦島田一良カ逆謀ニ與シタレハ其後悔

悟セシ旨申立ラタルカ明治十一年五月七日其方
島田勇ト連名ニラ左ノ書翰ヲ久保嘉吉郎ニ與ヘ
タリ

倍々御此栄ニテ御奉職奉忍賀候者其以來御無
音ニ打通失敬ノ段平ニ寛典是祈候者ハ過日越
村氏方ニテ島田一件御示談ノ上費用金七拾圓
計佐藤水野氏ヨリ外調達ニテ同人ヘ相渡依テ
此金返濟方ハ本月中ニ無相違可相納旨定約ニ
テ何レ期限近キニモ相成候ニ付此間佐藤氏ヨ
リ至急運送可致旨申來候ニ付小生モ今度島勇
氏方マテ罷越諸君ヘ御通知アラシメテ御依頼
申置候間何レ當十五日マテニ島勇氏マテ金拾
圓御運送被下候様御依頼申候尤委細ノ儀ハ後

便ニ御報知仕候尚此頃氣候專要候何成候相應
ノ御用向被仰付可被降候下憚御詰ノ諸君ニ宜
敷御通シテ乞フ

五月七日

島田 勇

嘉吉郎 大兄

奥野 志一

二伸割符方名書ハ後ヨリ水野氏ヨリ運送ニ
相成候間左様御承諾可被降候

右書翰ニ記載ノ金圓ハ一良カ大久保参議ヲ暗殺
スル為ニ上京ノ旅費金ナルカ當時其方真ニ悔悟
セシテナラハ右様ノ金圓ノ取扱ヲ為ス筋ナキニ
ヨリ悔悟シタリトノ申立ハ相立タサル旨御詰問
ノ趣拜承セリ右ハ自分悔悟シタルニハ相違ナケ

レ氏水野生清カ自分ニ向テ一良ニ渡シタル金ハ拙者等他ヨリ借用シテ立替置タルカ債主へ返済ノ期限差迫リ大ニ困却スルニ付乏下ハ久保カ出金ノ分ヲ受取り吳レヨト依頼セシニ付自分ハ何心ナク之レヲ承諾セラ其旨ヲ久保へ通シタルナリ尤生清武英等ヨリ一良ニ渡セシ金ハ生清武英等カ一良ノ大久保参議ヲ暗殺ノ為ニ出京スル旅費ヲ出スヘキヲ一良カ出立前ニ越村忠明宅ニ於テ申合ヲ為シタルホニ生清等カ其立替金返済ノヲ自分ハ生清ヨリ承知シ右生清ノ依頼ヲ受ケ久保へ文通ニ及ヒシヲナリ

一右ノ如キ手續ニ付自分ニ於テハ一良カ出立前ニ一良ノ旅費金ヲ周旋セシトニハ無之シテ一良カ

出立後ニ至リ生清等カ立替金ヲ取リ集ムルヲ生清ノ依頼ニ應レテ周旋セシトナルユヘニ右ノ仕方ハ今日ニ至リ不都合ノト存付タレ氏一良カ大久保参議ヲ暗殺スルトニ同意セシ故ニ右ノ如ク周旋セシニモ非ス亦夕悔悟セサリシトニモ非ス但何心ナク生清ノ依頼ニ應マシトハ不都合ノトナリト今更恐入候也

右ノ通相違不申上候也

明治十一年九月二日 富田 信 貫 押印

大審院へ達 司法省

島田一郎連累石川縣士族富田信貫犯罪履分ノ儀ニ付別紙ノ通陸軍省ヨリ文通ニ候條本犯受取相當ノ處分ニ及フ可ク此旨相違候事 一月廿二日

陸軍省回答 司法省宛

元陸軍々曹富田信貫犯罪處分ノ儀昨十一年九月中
御照會ノ赤陸軍裁判所ニ於テ取立候處軍法ニ關ス
ル逃亡ノ罪則別紙判決書ノ通ニテ國法ヲ以重トス
仍ラ軍律第十條第十四條改正條ニ照シ本犯御刃渡
可致候間相當御處分有之度書類相添此段申入候也
一月廿日

追テ本犯免官除隊申付候間此旨御承知有之度且
刃渡時日等ハ陸軍裁判所ヨリ照會可及候此段申
添候也

近衛歩兵第一聯隊

大一大隊第一中隊附

點考 陸軍々曹富田 信貫

該犯逃亡ス軍律第二百二十六條ニ該レ其自首スルモ
三年節ヲ過ルヲ以テ恕セス判決如右

但シ逃亡中所々ニテ姓名ヲ詐稱スルハ別ニ規ル
所アルニアラス只逃亡罪ノ覚覺セルヲ恐ル、ニ
出其情輕シ故ニ別ニ之ヲ論セス

明治十一年十二月十四日陸軍裁判長 黒川通軌

同 評事 山川 浩

同 権評事 伏谷 惇

同 坂本 純然

参考

陸軍大佐 野崎 貞澄

佐官代理

同 中尉 磯林 真三

近衛歩兵第一聯隊

明治五年八月

第一大隊第一中隊付

石川縣士族加賀國石川郡
金澤中主馬町住戸主

陸軍々曹 富田信貫

真宗

當十二月廿七年
四ヶ月

口供

逃亡之未自首之件

自分儀眞ヲ兵役ヲ厭ヒ逃亡ノ念ヲ生シ明治七年
八月廿九日夜眞ヲ貯置キタル私金五拾圓餘ヲ懐
中シ所持ノ和服ヲ着用シ官給品ハ悉皆舎内ニ差
置キ常柵ヲ衆越ヘ郷里ヲ志シ横濱マテ至リ熟考
スルニ唯今ヨリ郷里ヘ立歸リテハ必ス其筋ヨリ
探索セラレ捕縛セラレシトテ慮リ俄ニ変心東海
道ヲ経テ大坂ニ赴キ暫ク潜匿シ再ヒ東京ニ来リ

處々ニ潜匿シ同八年春中ニ至リ最早数月ヲ経タ
レハ郷里ヘ歸ルモ子細アルマシト考ヘ夫ヨリ歸
國シ親族奥田静治方ニ至リ逃亡ノ儀ハ程好ク申
偽リ滞留米穀尙業罷在ル中戸籍調追々嚴重ナル
ヨリ先非ヲ悔ヒ本年五月廿六日脱走ノ始末金沢
官所ヘ自首ハリタリ逃亡中處々ヘ宿泊中ハ發覺
ヲ恐レ種々姓名ヲ詐稱致シタルモ唯今ニ至リテ
ハ記憶不仕候事
右之通相違不申上候

明治十一年十二月七日 富田 信 貫花押

書記官議按

司法省同石川縣士族富田信貫犯罪處分ノ儀右ハ稟
請ノ通御裁許可相成裁仰允裁候也一月三十一日

司法省届

石川縣士族富田信貫處分濟之旨別紙ノ通玉乃判事ヨリ申出候間此段及御届候也 二月十七日

大審院届 司法省宛

石川縣士族

富田 信貫

右ノ者儀兼テ同濟ノ通本日處分申渡候條此段上甲候也 二月十五日

十二年三月七日

熊本縣士族伊良子軍十郎外四名ノ國事犯罪ヲ處斷ス

司法省伺

別紙熊本縣士族伊良子軍十郎外四名犯罪熊本裁判所ニ於テ審結ノ上擬律ヲ付處分ノ儀申出候右ハ同所具申ノ通處斷可致哉此段相伺候也 二月廿二日 司法

熊本裁判所伺 司法省宛

肥後國詫摩郡新屋敷村士族

伊良子軍十郎

肥後國詫摩郡今村士族

飯田古鋤太

肥後國山本郡上生村士族